

追跡レポート

こないだ聞いたことあー

どうなっただやあー

(平成21年3月)

定例会一般質問

問

地球温暖化防止地域推進計画は、いつ出来上がりますか。

答

現段階で考えている計画の骨子としては、村民の一般生活における取り組みの指針をアクションプランとして掲げ、その全体としての策定割合を目標とする事業量を中心に据えるものになりたいと考えています。また、平成21年度では取り組みの第1弾として、環境家計簿を全世帯に配布したいと考えています。

その後



地球温暖化対策地域推進計画を、庁内において検討し、パブリックコメントの実施を経て、平成21年10月に策定しました。環境家計簿は、10月に全戸配付をしたところですが、現在は、継続して環境家計簿をつけていただく「モニターファミリー」の募集を行っています。

私の思い出

過ぎし日の生活

飯田 太田 積子



私は昭和のはじめに生まれて、神城村、白馬村の住民として暮らしてきて70数年になります。何十年もさかのぼるのではっきりと記憶に無いところもありますが思いつくままに書いてみました。

私たち娘時代の頃は、今の生活と比較できない自給自足の時代でしたので、学校から帰ると、水汲みや野良仕事など家の手伝いが待っていました。昔は、田んぼに農薬を使わなかったのでイナゴがたくさんいて、捕って佃煮にしてご飯のおかずのたしにしました。お金は、山へ行って炭焼きや木を切り薪にして現金に換えました。

高等科(今の中学校)の頃に戦争が始まりまして、男子は軍隊に、女子は工場に働きに出る人達がいて厳しい時代に入りました。青年学校の頃は、兎や山羊を当番制で世話をしてに学校に行き自然との生活でした。

青年団に入った頃、気の合った友達と安定所の世話で冬働きに出ました。初めて4ヶ月くらい親元を離れてみて社会勉強になりました。静岡県でした。

私の嫁いできたのは村内で、専業農家でした。昭和29年で、その前の年は巳年の大凶作の年でした。実家の父親が米の心配をしてくれたのが心に残っています。山の植林を熱心にやる家でしたので、ずっと木の管理をしてきました。木起こしや下草刈りを何年も手をかけて、木の大きくなるのが楽しみでした。昔は馬が主体の農作業でした。年に2回ほどの田の草とり、蚕を3回くらい飼いました。朝早くから夜遅くまで働いたものです。根気くらべでした。その割合に現金収入が少なかったもので、冬には囲炉裏端で、炭俵や米俵を編んでお金をしたものです。

スキー場ができてからは冬中働き、今思えば苦勞もあったが楽しい思い出もありました。

健康でこれまでやってこられたことをよかったと思っています。